平成 27 年度厚生労働科学研究費補助金「妊産婦・乳幼児を中心とした災害時要援護者の福祉避難所運営を含めた地域連携防災システム開発に関する研究」

研究成果：

1) 学術誌に発表した論文（査読付きのもの）

＜原著＞

1. 吉田穂波，林健太郎，太田寛，池田裕美枝，大塚恵子，原田菜穂子，新井隆成，藤岡洋介，春名めぐみ，中尾博之．東日本大震災急性期の周産期アウトカムと母子支援プロジェクト（Primary Care for Obstetrics Team：PCOT）．日本プライマリ・ケア連合学会誌．2015;38:136-142.
2. 吉田穂波．低出生体重児の増加の原因と効果的な保健指導方法を探る．茨城県母性衛生学雑誌．2014;32:39-42.

＜総説＞

1. 吉田穂波．小さな命を救え！災害時の母子支援．診療研究．2015;505:33-38.

2) 学術誌に発表した論文（査読のつかないもの）

＜総説・解説＞

1. 吉田穂波．小さいけれど、大きな未来を抱えたいのち―災害時に胎児や子どもを守るため、どんなシステム作りが進められているのか、何が出来るのか．近代消防．2015;53(1):118-120.
2. 吉田穂波．身に染みてわかった産後ケアの重要性．助産雑誌．2014;69(2):72-77.
3. 吉田穂波．『時間がない』から、なんでもできる！時間密度を上げる 33 の考え方．日本 POS 医療学会雑誌．2014;19(1):35-39.

＜連載＞

4. 助産雑誌（医学書院）「災害時の妊産婦支援」2013 年 1 月より 2014 年 3 月まで毎月 14 回連載
5. 福祉のひろば（総合社会問題研究所）「穂波のアメリカ子育て事情」2012 年 4 月より一年間　12 回連載
6. 近代消防（近代消防者）「小さな命を守れ！災害時の次世代救護」2015 年 1 月より一年間　12 回連載

3) 抄録のある学会報告

1. 加藤則子，吉田穂波，瀧本秀美，横山徹爾．2005 年以降の我が国における出生体重減少鈍化の要因に関する研究．第 73 回日本公衆衛生学会総会；2014.11.5-7；宇都宮．日本公衆衛生雑誌．2014(61)10.抄録集:220.
2. H. Yoshida, K. Hayashi, N. Harada, J. Sugawara, Y. Ikeda, M. Haruna, H. Nakao,

Y. Kanatani, T. Arai. Crisis Management for Post-Disaster Maternal Care. 12th APCDM. 2014.9.17; Tokyo. Final Abstract. 2014 p.98

3. H. Yoshida, K. Hayashi, T. Arai, J. Sugawara, K. Morino, M. Haruna, H. Nakao, Y. Kanatani, Y. Ito, M. Suzuki. Community Preparedness on Maternal and Child Shelter for Post-Disaster Maternal Care. 12th APCDM. 2014.9.17; Tokyo. Final Abstract. 2014 p.91
4. H. Yoshida. Lessons Learned from Great East Japan Earthquake and preparedness for the next generation. Perinatal Care Conference in Yokosuka Navy Hospital; 2014.9.15;Yokosuka, Perinatal Care Conference. Final Abstract. 2014.p. 1
5. 吉田穂波，菅原準一，新井隆成，中尾博之，春名めぐみ． 東日本大震災における災害時の胎内環境が次世代に遺す要因．第 3 回日本 DOHaD 研究会学術集会;2014.7.25-26;東京.DOHaD 研究．2014; 3(1): 64
6. 吉田穂波．子どものいない未婚男性における「挙児意向」に影響する要因．第 24 回日本家族社会学会;2014.7.6-7;東京．第 24 回日本家族社会学会抄録集 2014.
7. H. Yoshida. Lessons Learned from Great East Japan Earthquake – Birth Outcomes in the Catastrophe of Highly Aged Country. XVIII ISA World Congress of Sociology. 2014.7.17; Yokohama. Final Abstract. JS-60.2. p.1094
8. 吉田穂波．災害時の母子救護システム構築．第 50 回日本周産期・新生児学会学術集会．災害ワークショップ;2014.7.13-16;浦安．日本周産期・新生児医学会雑誌．2014; 49(2): 606-6
9. 吉田穂波．自然災害から子どもを守る．第 6 回都市防災と集団災害医療フォーラム; 2014.5.14;東京，第 6 回都市防災と集団災害医療フォーラム抄録集．2014.p.3
10. 吉田穂波．ナショナル・データベースの解析からわかる未来の健康．第 40 回大学院医歯学総合研究科大学院セミナー． 2014.5.19;東京．第 40 回大学院医歯学総合研究科大学院セミナー抄録集.2014.p.9
11. 吉田穂波，春名めぐみ，新井隆成，中尾博之．領域横断的な災害時母子救護システム構築の最先端．第 20 回日本集団災害医学会学術集会;2015.2.25-27;東京．J.J.Disast.Med. 2014;19(12):363-5.
12. Y. Itakura, A. Yoshida, Y. Noguchi, T. Furukawa, R. Asami, M. Annaka, S. Shibasaki, E. Kano, Y. Masuda, H. Yoshida, T. Inamatsu, K. Shimada. Longitudinal Autopsy Study (1975-2010) of Clostridium difficile Infection and Pseudomembranous Colitis. ANAEROBE 2014.6.28-7.1.; Chicago. Final Abstract. p.249

4) 研究調査報告書

1. 吉田　穂波．平成26年度厚生労働科学研究費「妊産婦・乳幼児を中心とした災害

時要援護者の福祉避難所運営を含めた地域連携防災システム開発に関する研究」（研究代表者：吉田穂波）平成26年度総括研究報告書．2015
https://cloud.niph.go.jp/fileshare/download?file=XhpKkHX6vS3sniwm1TNM

2. 吉田　穂波、他．追跡率向上のための手法検討に関する研究．平成26年度厚生労働科学研究費「低出生体重児の予後および保健的介入並びに妊婦および乳幼児の体格の疫学的調査手法に関する研究」（主任研究者：横山徹爾）平成26年度研究報告書．2015．p.62-74
http://www.niph.go.jp/soshiki/07shougai/birthcohort/

3. 吉田　穂波．要援護者のうち、妊婦、乳幼児対策に関する情報の収集に関する研究．平成26年度厚生労働科学研究費「大規模災害時に向けた公衆衛生情報基盤の構築に関する研究」（主任研究者：金谷泰宏）平成26年度研究報告書．2015．p.24-29

4. 吉田　穂波．継続率向上のための研究．厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「研究マインドを持つ臨床医に対する疫学教育プログラムの開発と基盤整備」（主任研究者：高橋理）平成26年度研究報告書．2015．P48-62．

5. 吉田　穂波．平成26年度厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）「女性の健康の包括的支援に関する研究の今後の在り方に関する研究」（主任研究者：松谷有希雄）平成26年度総括研究報告書．2015．

6. 吉田　穂波．震災時公文書の検証、整理．平成26年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究」班（研究代表者：呉　繁夫）「産科領域の災害時役割分担、情報共有のあり方検討Working Group」（研究分担者：菅原　準一）平成26年度研究報告書．2015．

7. 中板育美ら．厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業「被災後の子どものこころの支援に関する研究」（研究代表者：五十嵐　隆）平成26年度総括・分担研究報告書．2015．

6）国や自治体の政策への貢献

1. 平成26年度　内閣府　新たな少子化社会対策大綱策定検討委員
2. 内閣府　まち・ひと・しごと創生室　有識者懇談会に有識者として参加
3. 北区　災害時妊産婦救護所検討会委員

7）国民への還元・情報発信

1. 災害時に妊産婦・乳幼児を守るためのツール
http://u444u.info/l8yQ

2. 受援力ノススメ

https://ndrecovery.niph.go.jp/quartett/ask_help.pdf

3. 妊産婦向け防災ブックレット「ママと赤ちゃんの防災ノート」

https://cloud.niph.go.jp/s/fd/kg6X0Qc6Ey2ciLETz7Hy

4. 妊産婦向け避難所運営ゲーム（HUG）ツール

https://cloud.niph.go.jp/fileshare/download?file=XhpKkHX6vS3sniwm1TNM

8）取材記事

【新聞】

東京保険医新聞　2014 年 11 月 5 日「東日本大震災を踏まえた災害時次世代救護のための解決策」

高知新聞　2014 年 12 月 19 日「東日本大震災からの教訓～災害時母子救護」

高知新聞 2014.12.19

大地震への備え 着実に

高知母性衛生学会 妊産婦支援へ地域連携を

南海トラフ地震などの災害に備え、妊産婦支援の在り方を考える学術集会がこのほど、高知市池の高知県立大学で開かれた。東日本大震災の被災地で活動した産婦人科の吉田穂波医師が講演し、心身のケアや地域との連携について語った＝写真。

吉田医師は震災発生直後に宮城県へ。南三陸町や石巻市などを回り、妊産婦を支えた。現在は国立保健医療科学院（埼玉県和光市）生涯健康研究部主任研究官として、災害時の母子支援システムの構築に取り組んでいる。

被災地では高齢化が進み、避難所では高齢者が多数を占めていた。吉田医師は「妊産婦は『若い』『妊娠は病気ではない』という理由で、ケアの対象から外れていた」。かかりつけの産科が被災したために受診できていなかった妊産婦を探し出して診察。急激な環境の変化で心身に不調を来した人や、臨月になっても産む場所が決まっていない妊婦もいたという。

震災ではたくさんの幼い命が失われた。吉田医師は国の統計から「3月11日だけで72人の乳児が犠牲になった」と解析。ほとんどが自宅など医療機関以外で亡くなっており、「地域と連携しないと、医療の中だけでは母子を守りきれない」と語った。

震災以降は、東京都文京区が災害時に妊産婦専用の避難所を開設する方針を打ち出すなど、妊産婦支援への理解は徐々に高まっている。都内では被災した妊産婦を想定した訓練も行われている。

吉田医師は「『妊娠から子育てまで、切れ目のない支援を』とよく言われるが、『防災』『災害』などのキーワードがあれば組織や地域が具体的につながる」と提案。「妊産婦や障害者などの災害時要援護者は『足手まとい』や『お荷物』ではなく、地域を結び付けるキーパーソン。災害時に生きるような人間関係、自助・共助を日ごろからつくってほしい」と呼び掛けた。

学術集会は高知母性衛生学会が主催。医師や助産師ら約100人が参加した。

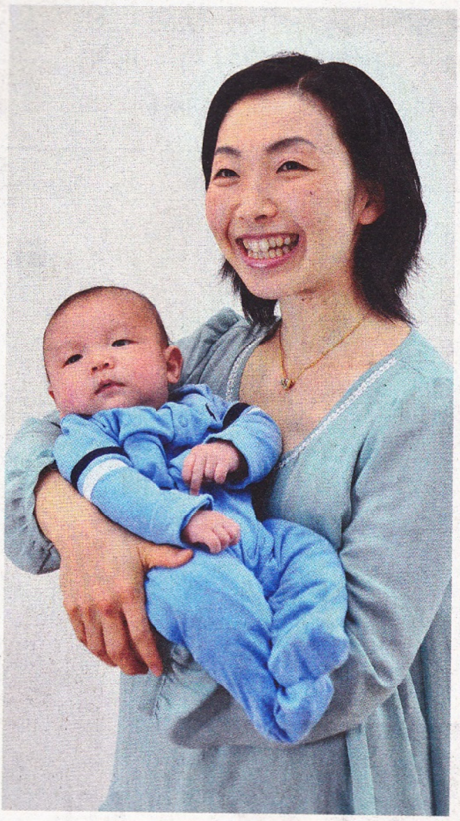
（門田朋三）

読売新聞　2014年4月10日　朝刊「顔」

顔

災害時の妊産婦支援を提言する、5児の母の産婦人科医

吉田（よしだ）　穂波（ほなみ）さん　40



撮影・清水健司

産婦人科医、5児の母、子連れ米国留学、被災地でボランティア――。どうしたら時間をやりくりできるのか不思議なほどの行動力。それでいて、たおやかな笑顔を絶やさない。

「一人ではとてもできないから、いろんな人に気持ちよく助けてもらう受援力（じゅえんりょく）が必要。それには笑顔と感謝が大切です」

東日本大震災で妊産婦支援に携わってから、国立保健医療科学院の主任研究官として、災害時の母子支援を提言。内容は東京都文京区の母子救護所計画として結実した。ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）がテーマの講演や著書も話題だ。

被災地では、他人に迷惑をかけまいと、苦労を抱え込む母親が多かった。「支援される人は助かってうれしいし、支援する人は頼られてやる気が出る。そんな人間関係の循環は社会にプラスになる。災害に備えるためにも、平時から助けられ上手になりましょう」

3月まで、仕事先にはいつも待機児童だった第5子が一緒だった。多くの人に助けられてきたから、佑（たすく）と名付けた。「人を助ける、優しい人に育ってほしい」（医療部　高梨ゆき子）

東海新報　2014年6月24日　「『受援力』身につけて」

2014年6月24日（火）東海新報 記事

「受援力」身につけて

子育て世代に助言　健康づくり講話

陸前高田

陸前高田市のNPO法人まぁむたかた（荻原直子代表）主催の健康づくり講演会は23日、同市米崎町の朝日のあたる家で行われた。産婦人科医で国立保健医療科学院主任研究官の吉田穂波さんが講演し、母親たちに「人に頼ることに罪悪感を感じないで。助けを求めることは相手への信頼、称賛のあかし」と呼びかけた。

この日の演題は「助けられ上手になって自分も家族ももっとハッピー」。医師であるとともに5人の子どもを育てる母親でもある吉田さんは、ドイツやイギリス、日本での研修とアメリカ留学、自身の出産経験をふまえ、母子サポートに関して述べた。

吉田さんは「受援力（じゅえんりょく）」という言葉を使って「助けを求め、助けを受ける心構えと能力」について解説。▽「すみません」ではなく「助かります」という言葉を使う▽感謝の言葉のボキャブラリーを増やす▽なんでもないときから相手への承認や信頼の気持ちを伝える――など、ポイントを説明した。

「私自身『なんでも自分でやらなくては』というタイプだった。でも子どもがいたらそれどころでないのが当たり前。お願いごと上手になっていい」と吉田さんは優しく語りかけ、日ごろから頑張っている母親たちをねぎらった。

自らも5人の子どもを育てる、講師の吉田さん＝米崎町

この日は味の素ゼネラルフーズ㈱（東京都新宿区）が熱いコーヒーを提供したほか、「コーヒーとからだのおいしい話」としてミニ講話も。参加者はコーヒーのこうばしい香りに包まれながら聴講していた。

7月28日、スマイルの行事

カメリアH

大船渡市の子育て支援ボランティアサークル・のびのび子育てサポーター「スマイル」（村上トメ子代表）は7月28日（月）午前9時30分から、同市盛町のカメリアホールで7月行事「こどもまつり」を開く。参加者を募集している。

スマイルは毎月、市内の幼児やその保護者を対象にさまざまな行事を開催。参加料は1家族200円（保険料とおやつ代）。おはようシアターによる催し

東奥新報　2014年3月9日　「国連防災世界会議を前に」
福島民報　2014年3月9日　「国連防災世界会議を前に」
東海経済新聞　2014年3月9日　「国連防災世界会議を前に」

世界に伝えたい（下）
国連防災会議を前に

5児の母で産婦人科医　吉田　穂波さん

安心できる空間必要

〈東日本大震災の直後、宮城県沿岸部に入り、避難先や被災した住宅で孤立しがちだった妊産婦を支援した。自身も4女1男の母。災害時の母子支援に向けたさまざまな取り組みを始めた〉

当時、産婦人科が被災して妊婦健診を受けられなかったり、妊娠初期の受診ができなかったりした人が多くいました。津波で車が流され、交通手段がない人も。臨月なのに半月以上受診できていない人は、自衛隊に輸送を要請しました。避難所では栄養が偏り、脱水症状や便秘、不眠などが重なりました。妊娠高血圧や妊娠糖尿病、帝王切開後などリスクの高い人も見られました。

妊婦はけがや病気をしていなくてもリスクが大きく、過度のストレスで状態が急変することもあります。阪神大震災では約3千人の妊婦が被災し、早産率や流産率が上昇したと言われています。

妊産婦の体は本人だけのものではなく、2人分の命に直結します。安心して赤ちゃんに母乳をあげられ、ゆっくり休息できる空間も必要です。被災地では、乳児を抱えた母親の多くが、避難所に授乳スペースがないので車中泊をしたり、寒い冬なのに屋外で授乳したりしました。プライバシーがなく、避難所を出た母子も多かったのです。

自治体関係者からは「気にはなるけど災害マニュアルには書いていないし、どうしても後回しになってしまう」という声を耳にしました。

一方で、来日したイスラエルの医療支援チームの装備に驚きました。内診台や分娩台、新生児蘇生設備などが充実していました。彼らは災害時でもお産があることを当然としていました。仲間と「日本は災害大国だけど、まだ『防災大国』とはいえないね」という話になりました。

〈吉田さんが住む東京都文京区は震災後、災害時に妊産婦や乳幼児を受け入れる「母子救護所」の設置を決定。区内の女子大と提携し、キャンパスの一部を開放する。訓練では危険度により妊産婦を分ける部屋や、診断や分娩をするナースステーションなどを設けた。この構想は東京都北区や世田谷区など他の自治体に広がっている〉

自宅に帰れば5児の母。夕食の準備に追われる吉田穂波さん＝2月、東京都文京区

電子母子手帳の普及も大切です。母子手帳のデータを個人のスマートフォンに入れます。スマホは常に持ち歩いているので、いつどこで災害に遭っても、胎児の状況などがすぐに分かります。

災害時、緊急性に応じて負傷者らを識別する「トリアージ」がありますが、東日本大震災では妊婦を識別できるタグがないことが問題になりました。改善に向けた検討が進んでいます。非常時でも当たり前のように妊産婦が守られる社会を目指しましょう。妊産婦もおむつや哺乳瓶などの備えを平時から進めてほしいです。

日本は世界で突出して少子高齢化が進みました。妊婦や子どもは少数派なので、災害時のニーズをつかむのが難しい。諸外国もいずれそんな日が来ます。日本での議論を持ち帰って生かしてほしいと思います。

妊産婦支援

「2人分」救う備えを

世界に伝えたい

国連防災会議を前に

＜下＞

〈東日本大震災の直後、宮城県沿岸部に入り、避難先や被災した住宅で孤立しがちだった妊産婦を支援した。自身も4女1男の母。災害時の母子支援に向けたさまざまな取り組みを始めた〉

当時、産婦人科が被災して妊婦健診を受けられなかったり、妊娠初期の受診ができなかったりした人が多くいました。津波で車が流され、交通手段がない人も。臨月なのに半月以上受診できていない人は、自衛隊に輸送を要請しました。

避難所では栄養が偏り、脱水症状や便秘、不眠などが重なりました。妊娠高血圧や妊娠糖尿病、帝王切開後などリスクの高い人も見られました。

妊婦はけがや病気をしていなくてもリスクが大きく、過度のストレスで状態が急変することもあります。阪神大震災では約3千人の妊婦が被災し、早産率や流産率が上昇したと言われています。

妊産婦の体は本人だけのものではなく、2人分の命に直結します。安心して赤ちゃんに母乳をあげられ、ゆっくり休息できる空間も必要です。

被災地では、乳児を抱えた母親の多くが、避難所に授乳スペースがないので車中泊をしたり、寒い冬なのに屋外で授乳したりしました。プライバシーがなく、避難所を出た母子も多かったのです。

自治体関係者からは「気にはなるけど災害マニュアルには書いていないし、どうしても後回しになってしまう」という声を耳にしました。

一方で、来日したイスラエルの医療支援チームの装備に驚きました。内診台や分娩台、新生児蘇生設備などが充実していました。彼らは災害時でもお産があることを当然としていました。

仲間と「日本は災害大国だけど、まだ『防災大国』とはいえないね」という話になりました。

〈吉田さんが住む東京都文京区は震災後、災害時に妊産婦や乳幼児を受け入れる「母子救護所」の設置を決定。区内の女子大と提携し、キャンパスの一部を開放する。訓練では危険度により妊産婦を分ける部屋や、診断や分娩をするナースステーションなどを設けた。この構想は東京都北区や世田谷区など他の自治体に広がっている〉

電子母子手帳の普及も大切です。母子手帳のデータを個人のスマートフォンに入れます。スマホは常に持ち歩いているので、いつどこで災害に遭っても、胎児の状況などがすぐに分かります。

災害時、緊急性に応じて負傷者らを識別する「トリアージ」がありますが、東日本大震災では妊婦を識別できるタグがないことが問題になりました。改善に向けた検討が進んでいます。

非常時でも当たり前のように妊産婦が守られる社会を目指しましょう。妊産婦もおむつや哺乳瓶などの備えを平時から進めてほしいです。

日本は世界で突出して少子高齢化が進みました。妊婦や子どもは少数派なので、災害時のニーズをつかむのが難しい。諸外国もいずれそんな日が来ます。日本での議論を持ち帰って生かしてほしいと思います。

（聞き手・所沢新一郎、写真・牧野俊樹＝共同通信）

5児の母で産婦人科医　吉田　穂波さん

＜よしだ・ほなみ　1973年札幌市生まれ。三重大医学部、名古屋大大学院を経て米ハーバード公衆衛生大学院修士課程修了。現在、国立保健医療科学院主任研究官＞

【テレビ】

東京ケーブルテレビ　2014 年 7 月 23 日　たばさと GO！「文京区母子救護所」

NHK 松山放送局　2014 年 7 月 25 日　四国羅針盤「女性たちが変える避難所」日本テレビ

NEWS ZERO「ZERO HUMAN」2015 年 3 月 9 日

ZERO human

「ZERO が、旬な人に光を当てる ZEROhuman」
まだ世の中にあまり知られていない
「未来のキーパーソン」にいち早く光を当てる企画です。
約 40 秒の限られた時間に、人物の魅力を凝縮。
フレッシュなヒューマンの「原点」を伝えます。

ZERO CONTENTS

- NEW キャスター 舞台裏トーク
- 特 集
- FROM ZERO
- NEW 村尾が取材する。
- 櫻井翔イチメン！
- NEW 桐谷美玲 my generation
- 板谷由夏LIFE
- NEW ZERO human
- キャスターコラム
- 3.11 あの日から、4 年。
- いじめ、いま君に伝えたい。
- ARCHIVE 過去の出演者
- ZERO MINUTE
- ご意見・ご感想
- 情報提供

2015年3月 9日

産婦人科医 吉田穂波

ツイート 1　いいね！ 95　B! 0

産婦人科医の吉田穂波さん(41)。

全国で初となった
「母子救護所」設置の仕掛け人です。

「母子救護所」とは、災害時に妊婦や、
出産後の女性と赤ちゃんを助ける場所のこと。

妊産婦は高齢者や障害者と同じ
「要援護者」だといいます。

自身も5人の子供を育てるお母さん。

助け合いで社会に
プラスの循環を生む、
その原点とは。

「防災を考えることは
人の優しさ、思いやりを引き出すこと。」

前へ　次へ

BACKNUMBER (418件)

RECENT ENTRY

- 学生コーディネーター 村本宗一郎
- 仏女新聞 主筆 飯島可琳
- 彫刻家 植田努
- フィジカルトレーナー 中村豊
- 薩摩ボタン絵付け師 室田志保
- ニホンヤマネ研究者 饗場葉留果
- JRA騎手 ミルコ・デムーロ
- マジックパフォーマー 松原俊生
- 新体操日本代表 畠山愛梨
- NPO法人代表 教来石小織

ニュース ピックアップ